

2019年度(平成31年度)学校評価自己評価表

駅家南中学校区	校番 47	福山市立駅家小学校
最終更新日	2019年(平成31年)4月1日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	コミュニケーション力	協調性・思いやり
○評価指標は定量化されており、子どもたちが学ぶ意識を高める取組を継続してほしい。 ○子ども一人一人に目を向けた質の高い教育を保護者地域と展開できるよう、引き続き三校連携を強化してほしい。 ○地域住民への発信は、より効果的な方法を含めて検討が必要である。	○互いの意見を聞く、受け止めることはできているが、自分の考えをわかりやすく伝えることに課題が見える。 ○地域活動へ多く参加するなど、住んでいる地域が好きな子どもが多い。 ○言われたことをやろうとするが、少し難しいことへ挑戦したり、自分で課題を見つけて解決しようとする意欲が低い。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	駅家に愛着と誇りを持ち 主体的に行動する児童生徒	
		中学校区として統一した取組等	話す・書く(アウトプット)場面を意図的に設定した授業を行う 保護者、地域と連携したふるさと学習を積み上げる 駅家南中学校区スタンダードで生活習慣・家庭学習を定着させる	

III 自校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	コミュニケーション力	協調性
駅家に愛着と誇りを持ち、社会に貢献できる自立した子どもの育成	めざす子ども像	全体	自分とは異なる他者の考えを受け入れ、ともに課題を解決しようとする児童
学校教育目標		1・2年生	相手の存在を認め、なかよく一緒に活動しようとする能力
主体的に学び 豊かな心を育み たくましく生きる力の育成		3・4年生	相手の気持ちを考えながら、積極的に関わり、協力して活動したり話し合ったりしようとする態度
現状		5・6年生	相手の思いや願いを受け入れながら、積極的に関わり、尊重して活動したり話し合ったりしようとする態度
研究	教科等	算数 図画工作	
	主題・内容等	「児童が自ら考え学ぶ授業の創造」 — 「学び」を深めるための問いや活動の工夫を通して —	
	めざす授業の姿	児童が主体的に学び、友達と対話しながら深める授業 1 児童が自分の思いや考えを堂々と表現する授業 2 児童が何を、どう学んでいるかという学びが見える授業 3 児童が自分の考えを深め、「そういうことか」が実感できる授業	

福山市立駅家小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%以上評価	達成評価
1	「学ぶ楽しさ」を実感できる子どもの育成	★	新規	児童の学ぶ意欲を向上させる。	児童が何を、どう学んでいるかという「学び」の見える授業への転換を図る。	『「教えること」と『学ぶこと』のバランスを考えながら授業をしている」と答える教員80%以上。							
				学び合いを活性化させる。	児童の発言やつぶやきを「取り上げ」「つなぎ」「問い返す」場面を設定する。	「授業の中で、児童の対話やつぶやきの中身を聴いている」と答える教員80%以上。							
1	「生きる喜び」を実感できる子どもの育成		新規	共感的人間関係を大切にした積極的生徒指導を推進する。	日常生活の中にある「思いやり」や「やさしさ」を感じる行動を取り上げて顕彰する。	「学校が楽しい」と答える児童80%以上。							
				主体的に挨拶ができる児童を増やす。	生活委員会を中心に、主体的な挨拶について児童に考えさせ、改善を図る。	「先生や地域の方から挨拶をほめられたことがある」と答える児童70%以上。							
1	地域に貢献できる子どもの育成		新規	「3S(整理・整頓・掃除)運動」を推進し、積極的に取り組む児童を増やす。	ボランティアカードを作成し、校内や地域でのボランティア活動を奨励し顕彰する。	「学校や地域のために役立つことをしている」と答える児童70%以上。							
1	教職員の働き方に対する意識の醸成	★	新規	定時退校日を推進し、勤務時間を意識した働き方を浸透させる。	全教職員が毎週1回以上の定時退校を確実に実施する。	「毎週1回以上の定時退校を実施している」と答える教職員90%以上。							

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。